

研究所だより

第328号

2013年1月31日

発行：土佐清水市教育研究所

TEL 82-3016

この春より市内5中学校が1校に統合になります。各校ではいろいろなイベントを催し、最後の思い出づくりに忙しい日々となっていることと思います。

数々の思い出を作り上げてきた我が母校、温かく見守り育ててくれた地域、今、子ども達の思いは走馬燈のごとく駆け巡っていることでしょう。

休校となる学校の子どもの思いをお知らせいたします。下川口中学校の子どもの思いは、12月分で載せましたので省かせていただきます。



万次郎青年像

<下ノ加江中学校> 「地域の人の温かさ」 2年 大塚 清水

来年度土佐清水市内の中学校が統合することで、不安に思っていることがあります。それは地域の人たちとのあいさつや交流です。統合してしまうと、私たちはバス通学になり、朝早く家を出て夜は帰りが遅くなってしまい、これまでのような地域の人たちとの挨拶や交流が減ってしまうのではないかとことです。

今はわたしが学校に行くとき「おはようございます。」とあいさつすると「おはよう」と返してくれます。帰るときは「さよなら」と言うと「おかえり」と返してくれます。当たり前のことかもしれないけれど、わたしにとってはとっても嬉しいことです。



大岐の浜

実は、わたしは小学校の時、地域の人から「おかえり」と声をかけられても、どう返したらいいのか分からなくて「さよなら」と返していました。「おかえり」と言われたら「ただいま」と返せばよいのですが、その時のわたしは家族ではない地域の人に「ただいま」と言うのが恥ずかしくて言えなかったのです。ある日のことです。「おかえり」と言う声に対してともだちが「ただいま」と普通に返していたのを見て、わたしは、恥ずかしいことではないのだと思いました。それは「ただいま」と返された地域の人がとても笑顔になっていたからです。

次の日の帰り道「おかえり」と言ってくれた近所のおばさんにわたしは「ただいま」と笑顔で返しました。やっぱりちょっと恥ずかしかったけれど、声をかけてくれたおばさんが嬉しそうに笑ってくれたのを見て、嬉しくなりました。それからは、帰り道で出会う地域の人に普通にあいさつができるようになりました。

わたしは「おかえり」には、特別な意味があると思います。「おかえり」には、この地域に帰ってきてくれてありがとうという優しい気持ちが入ってい

ると思います。そして「ただいま」には、「優しく迎えてくれてありがとう」という意味がこめられているのだと思っています。

また、小さい頃の思い出として強く心に残っていることがあります。それは、地域の人たちの優しさです。わたしがまだ、小学校低学年の頃、友だちの家から帰っている途中、自転車のタイヤに足が絡まり、そのままこけてしまったことがあります。

スピードを出していたせいで、こけたとき前のめりになって、足の爪が落ちてしまいました。わたしは泣きながら自転車を起こして、自転車をこごうとしたのですが、動きませんでした。それは、前のタイヤがパンクしていたからです。時間は6時を過ぎていて回りは暗くなってしまいました。そんなとき「大丈夫？」と、地域の人が声をかけてくれました。「足痛かったろう？」と言って足についた砂をはらってくれました。地域の人にとっては、何気ないことだったかもしれませんが、とても心に残っています。

中学生になって、近くのお店に行くと、そこにいるおばちゃんが、「清水ちゃん、大きくなったねえ。もう中学生やね」と言ってくれました。自分の子どもみたいに私たちのことも見守ってくれているのだなと思いました。

この前行われた最後の体育祭では台風の接近で天候が悪かったのにもかかわらずたくさんの方が応援に来てくれました。

競技をするときも「がんばれー！」と声を出して応援してくれていたのが嬉しかったです。体育祭が終わって、帰るときも「がんばったねえ」「よかったよ」と笑顔で言ってくれたのを見てわたしも自然と笑顔になれました。

これまで地域の人たちが私たちに関わり合ってくれることを当たり前のように過ごしてきましたが、よく考えてみると、いろんなところで見守ってくれていることが分かります。

わたしは、自分の子どもみたいに温かく見守ってくれる地域の人をわたしは好きです。そして、生まれ育ったこの下ノ加江が好きです。来年統合してしまうということに対して、寂しいという思いが私たちや地域の人にはあると思います。地域から学校が無くなれば、今までのようにとはできないけれど、地域の人たちが私たちを見守ってくれているということは、変わらないと思っています。地域の人たちがいたおかげで今のわたしがあると思います。統合しても地域の人に感謝して、これからの一日一日を過ごしていきたいです。

<足摺岬中学校> - 2年 山崎 航大

僕は、この学校がなくなると聞いたときは信じられませんでした。

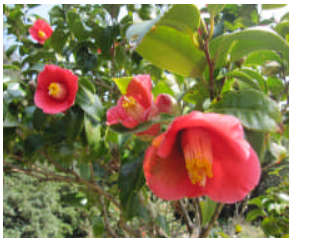
なんのためになくすのか僕にはよくわかりませんでした。この足摺岬中学校で卒業したかったです。

この学校にはいろいろな想いがあります。

まず登校道が木にかこまれていて暗くてちょっとこわいということと、坂がとてもきついということがあります。

何回かイノシシに会ったこともあります。

ヘビにも何回か会ったことがあったので、自然が豊かだなあと思いました。



足摺椿

一年生の時はここを3年も登るのかなあと思っていたけど、2年たつのは早かったです。この坂を登るのはまだ慣れなくて、いつも息をきらしながら、登っています。

人が少ないからできることも多いと思います。足摺岬中学校にいて社会に役に立つことを教えてもらいました。

キャリア学習ではいろいろな話を聞いたり、音楽交流会で大勢の前で発表したり、三分間スピーチなど僕は人の前で話すのは苦手だったけど今は大勢の前でも自信を持って話せると思います。

それに、人とうまく付き合えるようになったと思います。

休み時間、全校で遊んだりしてみんなと仲良くなれたと思います。

この学校がなくなるのは残念です。でもここで教わったことを生かしていきたいです。

<足摺岬中学校> - 2年 浅利 なつこ

私が足中に入学して生活の中で、色々と印象に残っている事があります。

一年生では、二、三年生が修学旅行に行っている間、一年だけで大戸の浜で磯遊びをして、ヤキソバを食べた事が思い出に残っています。他にも、みんなで戦時中の見張り台探しに山へ登ったり、体育館で鬼ごっこをしたりしてとても楽しかったです。

二年生では、まず修学旅行で富士山に登った事が思い浮かびます。本当に登れるかとても心配でした。全然変わらない景色の中で、いつまでたっても頂上に着かないような気がして不安になりました。でもご来光を見られたし、頂上からもきれいな雲海が見られてとても達成感がありました。いい経験になったと思います。

夏休みのキャンプでは、ホラー映画をみんなで見て怖くて眠れなくなりました。

卓球でも、大会でそこそこ勝ち上がれようになったので成長したと思います。

一年生だったときからあつという間に時間が過ぎました。

でも、あのきつい登校道は、来年から登れなくなるんだな、と思うととても寂しく感じます。できれば、この学校で卒業したかったけど残念です。

もう来年からは今のメンバーで授業を受けたり、部活をしたり、休み時間に遊んだりすることはないだろうと思うので、残りの時間は、大切に、充実させた学校生活にしたいと思います。

<三崎中学校> 平成24年度卒業生 川淵 真子

私はこの三崎中学校が大好きです。

この3年間いろいろなことがありました。1年生の時、私たちはとても仲が悪くて、先生や、先輩、家族に迷惑や心配をかけていました。部活も行ったり行かなかったり、行けば行ったでいろいろトラブルが起こったり、今考えると、恥ずかしい気持ちになります。それでも3学期になって、修学旅行の話合いも少しずつ班になってできるようになり、この頃から少しずつ学校が楽しくなりました。



松尾海岸

2年生になり、いよいよ修学旅行に行くことになりました。修学旅行で、一番心に残っているのは、長崎の夜聞いた中村さんの話です。被爆したことや部落差別の話を知りました。私たちは、その話を聞きながら、心の中で「自分たち女子の関係をどうにかせないかん。やっぱり、人の命や仲間を大切にせないかん。」と思いました。だから、私たちは、修学旅行で成長したと言えると思います。



桜浜

修学旅行から帰ってくると、私たちには部活動が待ちました。私は、それまでは真剣に取り組んでいなかったのに、チームの足手まといになりたくない、必死になりました。1年生の中には、上手な人もいたので、「負けたくない。一番上手になりたい。」と、思うようになりました。でも、それまで真剣に取り組んでいなかった私は、サーブはまともに入らず、アタックは打てない、レシーブもできない状態でした。だけど、先生に叱られたり、励まされたりして、心も少しは強くなっていきました。そのおかげで、「ボールを取る。」という執念が生まれ少しずついろいろなことができるようになりました。

3年生になり、部活動の最後の試合が近づいてきました。男女とも、部活動に専念する日々が続き、みんなのストレスがたまっていたと思います。しかも、受験生なのでみんなの顔は疲れ切っていました。でも、私たちも、自分たちなりに成長できているので、愚痴を言うことも少なく、周りに気遣いすることもできるようになり、忙しかったけど楽しい日々を送ることができました。そして、いよいよ最後の試合の日がやってきました。私は、その朝、「絶対勝つ。」という思いで、学校に向かいました。バスで体育館に着くまで緊張して、袖衣と二人で、「勝とうね、絶対。」と話しながら行ったのを覚えています。体育館に着いた頃は、どきどきはマックスになっていました。

私たちは、今まで勝ったことがなかった東中学校に勝った時はうれしきでいっぱいでした。だけど、他の2校に負けてその日で中学校での部活動は終わりにになりました。試合後のミーティングで先生の話を知っていると、涙が出てきて止まりませんでした。部活動を通して、いろいろなことを学びました。私は、このメンバーで、この三崎中学校だったからこそここまで成長できたんだと思います。私は、三崎中学校で学ぶことができ、本当によかったと思います。そして、すばらしい先生、友達、先輩、先輩に出会えてよかったです。今年で、休校になります。私たちの思い出がいっぱいつまった最高の学校です。この学校で学んだこと、共に過ごした仲間を忘れません。そのことに感謝しながら、これから悔いが残らないように一生懸命過ごしたいと思っています。

<教育研究集会関係>

①「清水の教育」原稿締切 - 2月8日（金）

*印刷業者に提出する都合がありますので締切は必ず守ってください。

② 教研推進委員の選出に関わって

*従来の地区ブロックごとにするか、ブロックを新しく作り直すか等、職場で話し合って結論を現在の地区推進委員にお知らせください。結果は2月15日の推進委員会で出します。それまでに宜しくお願いします。